

国際会議から 第2回 軌道と橋りょうの相互作用に関する国際会議

本国際会議は、軌道と橋りょうのレール長手方向の相互作用に関する設計を議論することを目的として、一昨年度から開催されています。

今回の参加者は40人程で、軌道と橋りょうのエンジニアが出席し、ワークショップ8件、フォーラム8件の口頭発表がありました。内容は、急曲線区間の軌道・橋りょうの相互作用や、付加レール応力の低減策に関するものでした。国際会議としてはめずらしく、テーマを「軌道と橋りょうのレール長手方向の相互作用に関する設計」に絞り込んでおり、出席者も実務で設計に携わる方が主であったため、実用性が高く深い議論を少人数で行うことができました。筆者は、高架橋上のまくらぎ直結分岐器区間のレール軸力と変位の変動について口頭発表を行いました。レール軸力やレール縦抵抗力の限度値に関する考え方は、欧州と日本とで約2～3倍の差異があることから、参加者からは設計思想の違いや、



西宮裕騎
軌道技術研究部
軌道構造研究室
副主任研究員

限度値に関する質問があり、有意義な議論ができました。

本会議で議論されている内容は、欧州標準化委員会 CENにおいても検討されており、軌道と橋りょうのレール長手方向の相互作用に関する設計が将来的にISO開発の対象になる可能性があります。そのため、引き続き諸外国の技術動向を調査するとともに、日本の橋上ロングレールの設計思想や最新の研究成果を発信することで、今後の国際標準化に向けた準備を進めていきたいと考えています。



会議の様子



会場となったクーパー・アソシエイツ・カウンティー・グラウンド
(クリケット場の中)

正式名称：International
Technical Forum and
Workshop on Track-
Bridge Interaction

開催国：イギリス(トントン)

期間：2018/3/6-7

主催：DR Squared Ltd.

開催頻度：年1回

次回開催予定：未定